



さんきんこうたい

参勤交代の制度は、なぜ定められたの



しょうぐん しゅじゅうかんけい
**将軍との主従関係をあらためて意識させることや、
 大名にお金を使わせることが目的だったんだよ。**

参勤交代は、1635年の武家諸法度ぶけしよはつとによって制度化されたもので、関東の譜代ふだい大名は半年ごとに、その他の大名は1年おきに、領地住まいと江戸住まい（参勤）を交代して行わなければならない制度です。大名が、国もとと江戸との間を行き来するときは、たくさんの家来をつれていたので、大名行列とよばれる長い行列を組みました。

将軍と大名の主従関係を、あらためて意識させた

大名は、国もとにいるときは、いちばん身分が高い人ですから、いつも家来におじぎをされて、いばっていることができます。しかし、江戸では、決められた日に江戸城に行って、将軍におじぎをしなければなりません。これは、将軍と大名の関係が、主人と家来の関係（主従関係）であり、家来は主人したがに従わなければならない、と大名にあらためて意識させることを、目的としたものです。

たくさんのお金がかかる旅をさせて、大名の力を弱めた

大名行列の人数は、大名の石高こくだか（領地の米の生産高）が高いほど多く、加賀100万石の前田家の行列の人数は、4000人もいたそうです。こんなに多い人数が、何日も、または何十日もかけて、旅をするわけですから、それにかかる宿泊代・食事代などの費用は、たいへんな金額になりました。また、江戸での生活にかかる費用は、国もとにいるときよりも多くかかりました。幕府は、これらの方法で、大名を貧しくさせ、幕府にはむかう力を、なくさせていったのです。